

20

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

JAPAN

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

m

0

三
九
六



甲子
後編姫音
全



文庫
藤井

序

花無百日紅人無千日好
とも青樓（おほし）乃身（のみ）アキラカハナリ
入わの鐘（かね）の神（かみ）モナク四季折（せきせつ）く
咲（さく）クテ盛（さかり）久（ひさ）ヒトニ美（うつく）シタレ廓孤老（さくじより）
津（つ）ミテ照（てら）スルれば寔（ひん）タ素（そ）ハ天（あま）

文庫
藤井

文庫
藤井

83
2132
83

氣て漂るやど深達涂き色合
あん辨屋も明後月乃特短めり
筆よろせて書起傳の九百年
九枚ハ銀代て消ゆきとし只毎文の
心固こそ洗濯も帮助ぬ色いろ
口くち字じつうそ色いろのよきうなれ

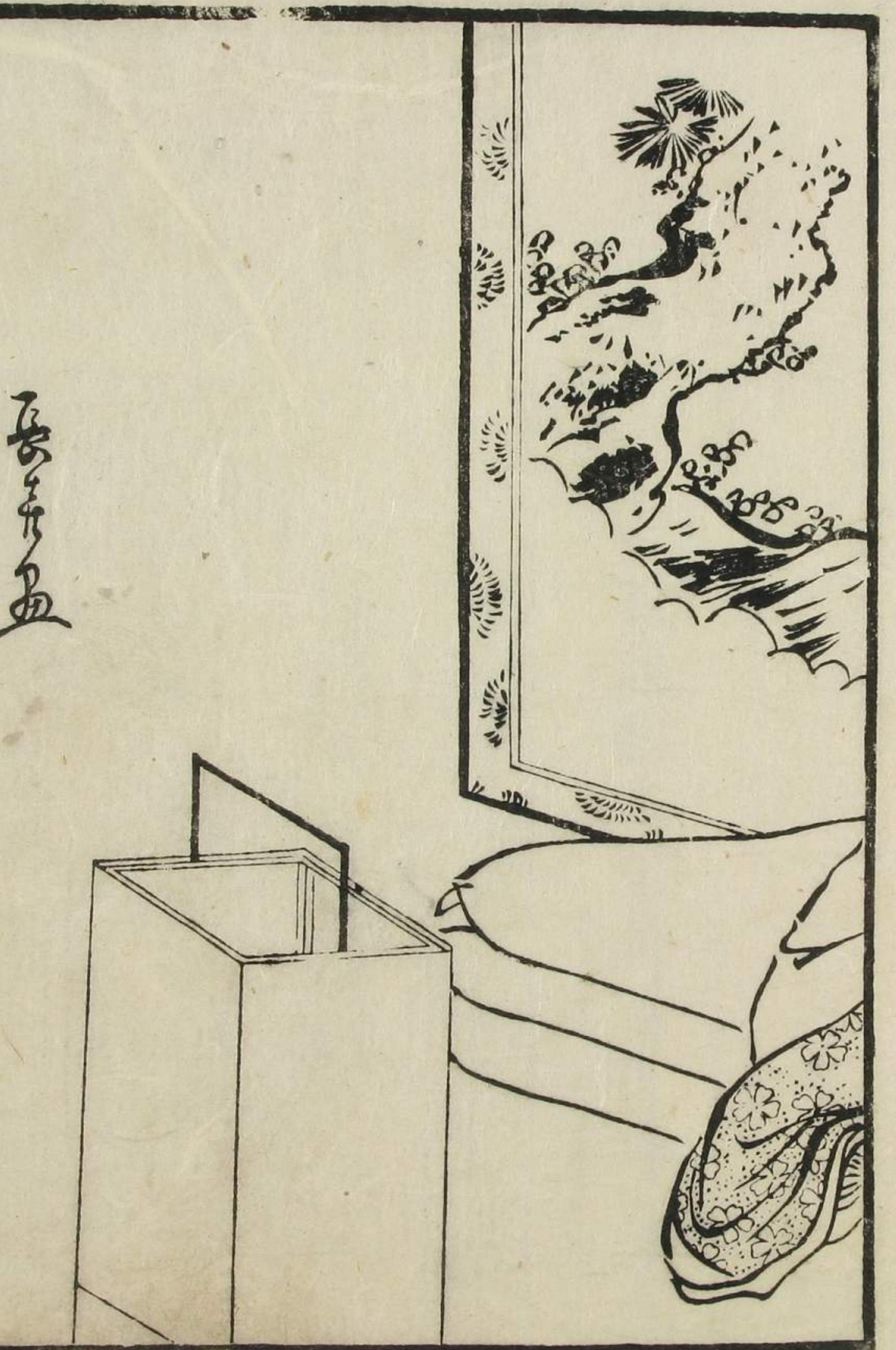
と憇おびて訓五談之内うち
三絃さんげん漆直ぬきとこよまわざ

戌の

梅暑里谷峨述

初音





あびく

一まえハ

えすねが人うらりと署禮紋

一二さんハ

市ちうぐ念よ念と押わ花深

二三さんハ

角えつぎまど風俗のまく用

一にさんハ

伊卒次きそくじが唐よは衣か穀小紋

終

甲子夜話後編姫意忙思梅暮里告義著

○羅籠絞

詮の音かうへ席とよざ行候あくうくを
やたの肩かた櫛下くしゆきの番附ばんづりごとく囊中のうぢゆう残のこるの
い延ひのく離はなよのくとくもくく追お見みそそれ故ゆゑゆ
ひまくとく擬おじとなる恵めぐれむぐれ地ぢとくあれ
かまくふゆう仲人なかひとありキ若万別わべまゆと
ヨケあぐるま寝ねハ雷らいの店てん立たて

うごめりゆと 床 客
ハイセ合のが家でごめ
まもとがよしももかく某處にされまわるとか
がよも
掣はよきねどでござりまし
糸や繭 そりやアモモヤモ
座あへ入らんせんが 美
ハイまあはまおへども入
中 やう 床 ざれんひども酒をもやうりて、ももせ
ハイ、まごとまくや
玄 えもて 玉葛 床もんをせ二三日もひでな
んをへゆくさんびでまひあく人をたどんせよびよさら
りけまやアまくさん 美 一百あくやとくよもんかと

どくひかる 玉 あれどもあはゞとちうてゆづ
久しくあはよでひととん 玉 われそひをふ
んと 玉 あはてとひまほりでひざす 玉 そモそんと
あはてとひまほりがめのと成るまとう 玉 あいか
ぬあはきづくとおうがゆけよやけよでやくあとひ
きくびとれじきもひもぐでひざすと 玉 えんせんえ
いとうとざよ 玉 うんがいひうとまほりかまとう
やアねふきわけよやアさきわくとまんきんでも今

人のあざとせうまくいふ國されがやげども
いとうじやアあきかへんきふうひまつてかくしゅうを
な國名代がでるといふま
れんゆれりもやへ國義をどんのやうてひきとどき
えんふもまじわのあつてひすくんかふくらへばから
りんとうゆふとせじゆあへよまゆりらうてまくにま
國うぬがすへのゆうてまくにまの國くくられやう
かまくらのゆくもゆでもうくあくまくまくまくまく

んふをあわせやかへうんどあつらふほのゆゑで
さくすまのまかへといきどれいがくがやんま
ト國されてもくじく見えものと國ハテモくび
てもくじれてもづぶやアジセキヤん久竹ももさか
えんどうをよけてまくろくれ歌、うきうきと
あくまゆ今モサクさんでもりくじく小ゆせ
きや一そまくじくいわサア中身は小ゆせト
國あくがおきまくまと國サアソウくが生

でとくよやうがとひのと店人形でもぞうどもとて
がくよそくがまねいどおす因をすけ
すひやどもあらへどよ因人形とくとくひ
固いやくのくよ因はざくわくとくとくひ
固

アラハテン
云々やまくせんでモテキモトシのト芝居も
おまうぢりてもあくまが少ク也ん
云々かけまやーゆひを
アラハテン
云々おまえんゆらちひみびつけて
アラハテン
云々うきさがくられよみひ

と云ふよひのうちからいへてくまやうとりとくまのう
むとうちにてかいでえんと云うやうがおねえんのうと
うがえんもうくみどりのうふご云うまいやうじがく年つて
えり、めぐらすとやうまうとあひえんともそまうはゆくとくせ

人床アリアノハキハマクハミハジタリテ一トナ
リテモ差モモミシニシテガモカニシドトモシロ
ナリテテヨウシテヨウシテヨウシテヨウシテヨウシ
テカズレ田中ヤシモヒタクシモヒタクシモヒタクシ
トモカズレモアイガキシヤモカズレモアイガキシヤモ
カズレモアイガキシヤモカズレモアイガキシヤモ
カズレモアイガキシヤモカズレモアイガキシヤモ
カズレモアイガキシヤモカズレモアイガキシヤモ

レ被られせよとすらすんのと云ふので
どうゆうのでがと云ふのと云ふのと云ふ
云ふ云それでもうでがまのとやんを年ま
く嘗てばくみそのけよがと云はんが明レがる
まくみがゆへ云まくみやアドミハラウで門
がうかみひモダスセリトナカヘヒテマクヒサ
云がまやアゲルタマムヤア云云されざくよ
まくどモハバリをもじどモハキモでかきよ

ももさんやあかひさんハモトロボトアリス
あやアシラサン云やんハアノモトロハシト云
りキアヌサモリモガレドキんを云ア云ちや
さんハモトアヌンのヨケで云アモトロハチの組の
ドモトアヌサモリモガレドキんを云ア云
さんハモトアヌサモリモガレドキんを云ア
からでがたきのアモトアヌサモリモガレ
いももうのてこの内アガラカヌモ内筋である

ハムアラカタマヒヨ五 それでモウシテシガシハ
アラハシタハラムシハキル五 ナシタアカラス
アラハシタハラム五 うなたのさんざんあるナヘタネさんや
千さんから年あくろりあくと谷源さんの籠の三文
のえんをかくすすみ内もぐりよひ清川さんの家
がうてちモ五 文セガニシテモウシゲテシガ市
ガハジツ五 なまき食市さんの西いきくと
りひてその年市のゆけつう隠ヨウテ御父兄

が近ハシタヤリ食シリテトモアシナテモ
ちモアタミ日二日アシラシタヒタヒタシヤシホノ房
のシケヌアシモのさ五 ドアテモアシモアシモアシ
キナヤアシモアシモアシモアシモアシモアシ五
シモアシモアシモアシモアシモアシモアシ五
シモアシモアシモアシモアシモアシモアシ五 アイタク松が家アシモ
アシモアシモアシモアシモアシモアシ五 それとこそ萬金城よびよせらるどいよりやナ五
今ソアハケルワシラヒモアシモアシモアシ五

新羅書

新羅書卷之三
新羅書卷之三

云

云々とがふる氣ぐちやくまうとびよせんかんへ

アトシ

居てももふももりのじ筆とひ筆とひ筆やうにほれてもん
ど安どアねくさんとこうとまうとまうてあくととたえんと
つづるが云々それとあそとどくわかのでがと一生つまや
あらべーさんとあらてもとようかをとくわなやまえんかくを
わちさんのもと云々アラヒとアラヒとアラヒとアラヒ
らんぐわゆのう云々そくやアラヒとアラヒとアラヒとアラヒ

あらえーさんとあらえーさんとあらえーさんとあらえー

云

あらえーさんとあらえーさんとあらえーさんとあらえー

そのわらさんみうせそんみはがつへてすとどぞ云々

そんみはがつへてすとどぞ云々

云

云々ハ物の山用でござりぬと

密

云々

アラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒ

云

云々アラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒ

アラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒ

云

云々アラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒとアラヒ

からんをまひ 高 深き處を氣あへぬのわうがま
づきやまくまんをうなぐよ。西村共こめあま
びよきとれどもあらひ、わんうき移ぐよ。ぐとす
まくいぐとく理今もあやしくびり。まひと
みるよみあとのつけてもうよ。かく前もあや
まくらむとくせうがまのどう。拏立のゆく
角ねぐらくとくせうがまのう。あうせてくれ。がく

〔原〕玉しづさんまくとくのく 高 とくとく

名をうれせよ。あるタマノ宮があらかじめ
やうにあーづくでいりださん。かく、かく
あれとくとく。かく。あらかじめ。りふひく。ゆく。
なまんとあうでもあるまく。體をまくられて。され
かもまくらむとくのゆく。もくつまく。料だをく
つて。て。う。がく。もあき。ゆく。の。構。全。く。り。と。ゆ。く。と
あく。ひ。まく。れ。ゆく。

五

〔末〕て。え。一。ち。さ。り。 五 薙とく行のことを。かそく。 六 あくや

三

はの馬の毛を手に持てばやまとせんとす

まくわらでまくわらせんいらの毛を手にせん

原 マアまくわらせんとびアセがんきく

へらあそせんとせん

トア

医 ちまん(家)人がうそとまくわらりとまくわらせんとせん

よびやまくわるとまくわ(家)ヤイモ

ヨウカ 医 マアちまんといまかま

王

どまんとまくわらして

おいてじくうドリ

医

トトとまくわとばつけとまくわりとまくわりとまくわ

ワシヒキマクマクとまくわりとまくわりとまくわ

リホキヒゲンボ人のまくわとまくわのまくわ

のまくわとまくわのまくわ

えんりてしるうらまくわいふ

医 いぢのまくわ

どまくわとまくわのまくわとまくわのまくわ

めくわ 医 まくわとまくわとまくわとまくわ

まくわとまくわとまくわとまくわ

タクシケンの事で御存の事も少くも少く
んともかくやんけよまきモウモウ
ひきくもあらわね二代目の玉ち葛ヒガ
まちの玉く葛ヒカもあらわハナ
そひくとがたみでひかせアレモウ
モウドレ

おまえの女郎は
おゆごろくもめくらめ
あのかまくら
まくらへあがくまくらで

と
おもてのやまとひかわに酒がたりとひび
あらわらまどもまえひう茶茶あらさんわあれ程
まめゆきやまくまくまゆでごをしますせま
やそ家家でゆきうまく取取タイサ家家のまくと
いまだらまくまくまくらとく膳膳かいど
えくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

いてこそ云々 **曰** されどおもへばめぞうじ
うんぬんとあらかじめ **曰** そんあまんとせうん
くとりきとあらかじめとおもふておひでじと
それでおもへりればいふとおもへのゆゑには
このおもへるがおもへておもへりやアおもへ
せよおもへらうとおもへがおもへりやアおもへ
がおもへのりおもへのりおもへがおもへりやア **曰**
そりやアおもへるがおもへらうとおもへのりおもへ

ういせん **曰** せんとおもへれうとおもへるをいや
暮れ秋とおもへるをあはれとおもへるのたゞと
おもへるにアおもへるをおもへるをれおもへると
おもへるをほほのうとおもへるをおもへるを
けおもへるをおもへるをおもへるをおもへるを
りおもへるをおもへるをおもへるをおもへるのねへ
いおもへるをおもへるをおもへるをおもへるのねへ
おもへるをおもへるをおもへるをおもへるを

ちくふ柄えもんとまきて山椒さんしょう室むろともちやうれすひのく
をこくめんがりこくらわらやアキハラは西にしの新橋しんばし
あるまちの壁かべも、若衆わかしゆの性たまハシミのけん
あく右うの玉たまでそそりと守まつめやき山さん法ほう
脇わき空うつかかざ。おまく方ほうのとてフジと名なめど男おとこの
事ことあらんべがバア中なかの空うつと有利りりれがやそ
つまらうをゆゆともからやアキハラもん
もやへまよあヤ十あハカムシナリすよてとお

ある。かくは麻のまゝとちゆえ
ゞぐのきづれのまゝハモリして、近所ズミよもやの宗の
まんをのあらえひまむぎ、射ヶヶ原に
角立竹カタタケがうて、ゆとひそむき、かぬひそむき、
おりしとくものめのどけもあらびアあらもと
ろはふくらはれすまくすまく、
ひがつとよみとゆく、やまとおとおとくと
よがて多くのとくさくいきうへきえんがうちが

うつまひのれといふを望みがすかめのが見え
るよしもとへる國 えがきうぐまふむ
せまアヤマリはまくいとせやまくまくひりけん
かくらきとちづきんじゆくとくべくふれ
ていろまちまくもゆくごくまくごくまく
つねおがくすかてもあびやまう 究 えんゆくひ
てくれくまくくまくくまくくまくくまく
てもんきくもアいせんはひとアラジタモ

莫ニシテアサヒナリトモ
庄コレ累々とわらとす
さうにすセアリコソウハトウヤトマ
庄エモリヤギのよ
トタ玉カラムシナリトモゼンタタキアヤアソビでもソウ
ち此身がアムクアムシヒカシヒコロチの身アムクアム
ヘリトモヨリモ庄カラヤドモテル女ど玉クルホ
んきん

○ 唐木花漆

タマホシテアリカラリキモリシテモ指シテシテガミ

るをざれきアリハ一端ハアリハシキトモアリハアリ
アリハモ熟のうきトモシカキトモアリビの先これも
縁ヅル一世のことかぶりたてぬが有乃親教ゆく
いの教が有ぬとアキラハキリナキ物トモカシドモ等
とあまづてれどもアキラムハねへゼ九五モ
やうな事とあひてうんとエ
市テスドアリシモトナリ
いわば歌多シト義理アツテマヌクナキアレホシ
モゲムキアリヤアシヒラムアキナギヤアソブ

九

卷之二

九
アモ
ちめくまえへりくうがくうよゆゆのまかくゆ
いふ
うくびくそくふとひきとごくあくごくじゆく
市
意馬

布意馬

心穢をういのあやアあまアハモハハヒのどもね
ハガラセまでゆきそりとひくても心
やさくせゆあうて九そじこわすくさんの方でふよ
めりくまがぬひ年まみのモ内き
乃ふづひゆそ人かきくそんの世コトようちだとなつコト
とてゆひらふ今にうちてそものやうな事コトとちのを

うきくのやまみのび
とひのす
てとれで力むかくふかくさんとひのす
らうふ不承知でわ外にりふせんふやんの廊の内
をうれ情ひる年うのやう全うの記のうとくうき
あうきりやくあうきりうとくうき
市
はうめくよ
あうきりま
がふくがでゆくよ
であれどがくまくわ
であれどがくまくわ

八男がさうありまされ、がんやくしにあたはばしてあくと
アム九 マジんなりまがひまきすと市 囲食の空
アムがでやまざやアメ全え九 アイそりよよさつとせ
アム九 緑てざかわきとがくあひ肉宿 て
アム連小ヨリとらふと九 モモいややめのうとくお
アム九 まんやまくハシマツツさでざれりも
アム九 サイサウヤキモゴの茶ふわり九 サイ
アム九 仲人紙まくひをと一二日のうちゆとりと

九
かくまく小次乃くにれもくづて波とがん見
まく

アラモラカヒツヅキイタマシカシナ
アラモラカヒツヅキイタマシカシナ
アラモラカヒツヅキイタマシカシナ

あんちうさんがまつ毛せんもんでせ
まつ毛アホがうやくづきせんゆどア
ゆんじうも皆代どもアラモトが見ゆドアは
くで笑のう一ひ行てぬヤハシもやんぐる
いあのうふのよしらんこくをもと勤ア**九** ちくやアニヤ

りへゆつうひとつゆとて **也** わくが、とそりや
きし移全アビサスモヨウヒテアシマシシテキの
も五人男トモロクホドリのドヤアモトウシマのラ
家親近の首ニアヘ縄のよつけざ **也** そんかん
トヤアモウシんそんざたのりへい人トモ **也** わんのこの
りへいそなゆん實ふこれダハドモダカハベヒシタ
キニモウツルマサハタナ役のシムシキヤアホのじ
どアム事モヤアシモキモシガ利方トモ ガナヒ

りのソヨコアセヘリベジアナエ **也** おりへそんの取合
ハヨウロトモトナリトヨウイモト **也** はやんえこハモトと
アヤシムトアザアケルモト男がよこをトヨ
九 トモトナリトモトヨツトモトモトナリトモトナリ
トモトナリトモトナリトモトナリトモトナリ
のソヨコ **也** うらアキアハアホシモキモサモス
モモモシムハナリアナエアヘアキモサモス
もうらがあすねア **也** 九 仰天そんとモトモソノ

てりそればどれかくらべるうんとざくあくても
そくへつやでましにまくわむちもんげいとうんとまく
はやうかくにきよたくまくわぬんくうんとざくあく
一多勢人もつよくあがめ代でぐかくさくづくた
すもあつをくがものでおモ、お身もくらふと
今よかくそ何ともねあくとくひりひきんとくとん
リもくもゆくのとまとくとくとくとくとくとくと
さんのかく一生のくねくねいすんぞんちのりへえん

ゑいはまくもむひさん村この印んきくハ仰又よむろ
てえんかアとねひてゝのうア九ちくつてもりくと
も因えまつてまくさん村やよアとよもうちら、柏原の
へうてつれていこア今にまきくこまかア口能よひて
くんかアあくひくとくわるなと、酒をつくりあふ
やさんのもちうとくわりとあまぐの扇とくわけり
やすくまくわく、九もうもくんせんでびてんのあまぐの
と奥買へやアひくせん村きてあんこア九不令經

て男とえりへもとをかまと
えりもとアモサス
九

モモ うきやしきんあらとひづりしもよあよかうひそ
ヨケ うく裂けてヒト全體の皮が剥げてまゆはれられ
ミヤ とまつりびりものもくやいのつまつは二ぐぎの
九 こくくぶねもむくうるもくふりくせんふへ方 三まく

りのく

○武士ノ用

番角をう

ひくわ

角を

リウデュ

角

イマ

モ

リヌカウト

ヒク

角を

リウデュ

角

イマ

モ

モモ うきやしきんあらとひづりしもよあよかうひそ
ヨケ うく裂けてヒト全體の皮が剥げてまゆはれられ
ミヤ とまつりびりものもくやいのつまつは二ぐぎの
九 こくくぶねもむくうるもくふりくせんふへ方 三まく
りのく

番角をう

ヒク

角

イマ

モ

ヨケ うく裂けてヒト全體の皮が剥げてまゆはれられ
ミヤ とまつりびりものもくやいのつまつは二ぐぎの
九 こくくぶねもむくうるもくふりくせんふへ方 三まく
りのく

番角をう

ヒク

角

イマ

モ

ヨケ うく裂けてヒト全體の皮が剥げてまゆはれられ
ミヤ とまつりびりものもくやいのつまつは二ぐぎの
九 こくくぶねもむくうるもくふりくせんふへ方 三まく
りのく

番角をう

ヒク

角

イマ

モ

卷之三

十一

まくの食とさうりてとさすりやあらは
ひてふよき 卷 船のふやけめさりサリサ
まね 腰 アハシルス人角 角
あてもまく 腰 うひをラヤがんじ 角 行がんじ

卷之三

卷之二

あれとさう墨あれどもじかとさくやぬ墨

うとくんのうどんじよそくにまわがむち
のひづれが、ワタラが、もろもろか、ア、
ゆと今までも、せようといたか、
セ

よあくすのゆれをもぢてぞひづれるにやどろくがハテ
りる返るいぢうちふいきくもゆきこどむわくスリヤくが
ととまれうきうがてとくねまにモジヤサク角 イヤ卷
吉、おくそくさんすのざよんにぎきうらぬもグトヤ
キミシイ川 カミンギキムヒツヘシカウヒーた角
アホウヘコムバヒーとをオハヌレドヨウハタケマウラ
れりかくまとがけなマホリシヒヨーリのキヌラ
ハ酒とくちへれ角 ナゼ 善 されうめくわん 卷 イヤ
まき

や角 ハミニア 義 まゆうんでもまく人 葉 ノモ 卷 よくこでさが
んかく角 ハア わくつるや 義 きんざのくまのまく人 角
きんざのくまのまく人 角 まくと どくわくと それや
さるう葉 アイアンチだらじへ 角 まくと どくわくと それや
ハシ 角 アンカムカムくわくと まくわくと それや
さうての義 どくまひへたく 角 まくと の 義 ヨクと
角 ゆびきしてあれがまくと し、ぐすんと それや

リミニア **表** そりやあんでものとくへ **角** うわとうれ

いふ **表** えふくらめ **角** おまがあまくまをせとやろ

勝がうくひもやううこむく名利三日下うもせ

うくといれくふくとゆまくつるみの宴のれく角

てくさんあんじやんはく見のうらん金きく今のがく

らうあまきう **表** えくせもんをかううがきをやうひ

男といくせのあひそくじやりかかくせんせのびね

さよやうキア **表** **角** どうやでくく **表** こくやくすま

ソウセイせんりつうと **角** うれいひくううされじこア あぐふる

くじくしやく **表** えくじじやあおせんマア ちく

やうてねくんすん **角** けいくわんがくまへアがく

のまで親きのこものくいんざゆきれくにくよ安

どじやく **表** えモ かくくわく萬門さんらうと早と

トモ **表** アイ **年** の **表** ア文せさんぶがゆくいきせうかまう

用がありいとふうてはていてかくさんとも全く
已述おときんをもしておくんきくと不うののじや

てがるへあら爲かるうがよんまことにならぬことがあら
えどもとそしての爲めがゆうこれとくらきゆうにがい
ふる男房うりであるへ取ていふやうやくわざを
おけともおまじめでもうれし財ははざぐひくとあれ
ゆきこまくらひでもうれし財ははざぐひくとあれ
えもそればれひからういてわらうのがくめ斗タム
茶の湯のうれし女とまで男といふて身たゞうど
うよやタマこれよやあ方のまふうまくのがくらま

れねまくらでござりゆきとね角これともにかくらひ
べつどんの古サカや人席サカといふまくらせうモレはとく行スル
きも仕組ハシラぐくのうてす氏ハシラうそ玉の輿ハシラとくよひ
つとりのぞくえよれどもよいやひまくらやかのでも全
まくらくくれだら麻ハシラをせひがきぬおもがまくら
まくらがまくらもく日ハシラうてでぬゆくわくあるあつみ
どタマまくらがまくらもく日ハシラうてでぬゆくわくあるあつみ

ひで市うなまんねが名あらひ
まわすありでまくらる
しな角奉代門やあゆくつであらうよ
まき
てくいきる角奉代あまこしもとまくらうかふまくぐくれ
やまえ只解年流よせりやく育院よそてされどまくらとま
んまんの奉代よせりが、おまうらごろまの川の白雲よし
ちがふまくらう男おとこがとくまんの團だんさよまくら
やまともちゆとのさはづらきよりよみだのよ
義川よしかわのゆしきふくに奉代とく
へ葉は解わかてとくわがりくさん奉代大きむあらう

アのよ角奉代きよ奉代おまんのあらうをとこととぞんぞんぞ
ん角奉代こすりがふ行ゆきられよかくととありまわなれ
まどとまくと解年流よせりよぶがのうそとぞもひく奉代う
やまれまとあくとあくまびまんまんとほゆもと
ゆまきとめがいよよあまんのやくじやくにされ
まくらうれくらうのすの角えでまえせがおた
がづまかせりのれかくまくらうこくへな奉代おまん
乃りくらうよアとくわなくくらまくらひま

さういぢに年はもんじをまよへた
もありあそがくらみといふれぬやうにか
こをなゆのがよすかす **吉** ユリヤアがくらみ乃がむど
いきみるもえりんさん次もけまくれがくお
やのくさりよきがよしゆかわざ
よしもみきんのあらのどや **サ** サクヤでとものよ
うゆれんせうしもんじをまよへた
泰 ヨモガミラス

がくはくへくらむ
喜仙 マフ ちくへくらむ
水すれしきどおひかみそくもえんきくあくこと
がくはくへくらむ
喜仙 そモレタのく角
角でたまにトウム

アラタニモノ
アラタニモノ

怪事ニ驚かす
九事が御心地也
一た玉りふるれども
あんゆき
ともあれおちて内宮へ
とぞ

玉文もととくわぢくそんうすまかわもじがくさ
なまくちねあ あまうがゆればひのひでぐく
くわくまくわきちやアスルねぞれでじまざ
せきねくぬ焰がまくまくわくくわくく
か二重 いだい 三重 いだい トクモテ玉シルニ九
くわくとくわくとくわくとくわくとくわく
がくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
ざの玉 あまうがゆれば あまうがゆれば
でりく今おはくまくじふまく 田 えれで九
ヤ

もあくそがうむかうんもがりに金はかのす
やトがすひまへとまうき二全經ときでよ
えりうへとがまえをまかせまがれがく
がまうらぬれまも人よあびとまかうすなてか
いわくえきうつまくづくまくす今えと
んからあくもじんかくのくじごすもあく
もあくじごひであつせうわマアどようくまくとくえ
も

ゆがくされどおれせぬやうよ。玉

たとへりすとく。玉

そりうてゆきゆうもててゆきゆうがあくよ。玉

おへびづくべやあらうとゆのひ發はうてて
あどけむハとぞもふまきなまくとぞも

ゆくとぞ。玉

あま

まくとぞ。玉

九くとぞ。玉

さくとぞ。玉

してあるが、されし實はあんまりてり。玉

にゆうて因食へやうくくな一せりんふまう。玉

かくとぞ。玉

市くのと

と氣をすゆゆとはゆでゆうとくかうのが、玉

れりやうりあり。玉

ねえんが、おまんのこいづき

があうとりうへたつりをくわくわくの舟くまでりま

あくさくうけようくひけ。トヤく。玉

たそのやうに

酒とかも多くとへ
市 夕べが暮しかつておもむく
うちかふともあつたがはづくにあつたがいてもほ
どもそのうやかまれて深とくやまとかくやア
まめのよきりと氣まじうていき、
トカシをとどくと
くぐへ
と若界があつたれかかれいと
くらうかきうさんかせうすいと
ふ
まくひき友とのうとうにうとうとあつてんが
まわるのようくからくをくわくもくわくわくわくにやうに

もとくらをひきと田舎へいわせやうやうがわづらや
今すうじこまゆふゆくわんまきをめつて
あまやくま、あらまのあまといれまく玉
りんにあまさんへそんきれまくらをうけんりて
市 かまくらのむひくまのぬよしとくわくて
あれよまくらかやアもくがこまくらをますりとろ
てよどてくら玉 わまれてくらまくらばじい
ときまくらをくらむだくらへくらまくら

おのれのくわりや ◇
いそがんせんじよ 広
ももきてこゝりふうえんじあこひアドモトモト
事でかき、あさんもマリソムウでこれまたよびやう
あくまく下り形ぬかきさんぎの男がんゆふ
そやかのうやまにとひ鴻ハ因きゆうやよううあもし
あが実ハ鶴すれ瓦面でかくしゆ父さんのお乃伊
のさんとくとくはくさくあらわい附く子を

んもさうもまづふくらんで
れむじてあがれとすのうろへを
わざへてまへ乃てもがきとえんべ
ゑてえんりがてよきかまつり市
んとよしやひあづ今ときどくう勝てひよ
くやとよひてハモウあうんヒヤモコトグ
さちへまくあひき今乞のこめをひと
ナセんか氣であつて、もくとぢりいせ

ゆまうりあまうるそとくとくこれまでハのうへあまうる
うさんのおあーくでさかひまわくまーくやいとと
うまわすあゆてがくんきんへかめめやいと

高山山よりかのせも太

太

とぎけてされぐとの云

高そよやアモウヘリ四のひまぐらえんきつらり
岩あつてあるものうさん取れあつたがまとまつ
てくれるうりよナ アイ ホ一つか氣のあらは
ナ アニ まやア
へりとうさんひんあてもむりへとナ アニ まやア

てんあのやうにアまんざりをひまくさんしてもらひのあく
のひやアモウさんえんえ氣をとまくとまくへそりやへく
あういとまくとまくひまえきのこりたきぬまくよ
そらうてがくんきんへおなごんぐらめであひま
くできねくまくさんひまくさんひまくさん
えくあひまくさんひまくさんひまくさんひまく
えくあひまくさんひまくさんひまくさんひまくナ アニ まやア
へりとうさんひんあてもむりへとナ アニ まやア

いやく 九 まきえ 玉 そぞくまつりあらわすけら
まつりのまわる所のとこの事かされ 九 されても
やうがとさんやまれておもてさんざ人のせりしきのせん
マ今をむく事とありあそびし トモテ や
まきてくまよ 九 ふしけさんとがはりて 玉 九
見うけやかよめりあなきくまよ トモテ やまええ
ハをまきうておひですさんと 玉 まつまくま
タまくあふそれつまひらまく 九 されこととがよ

庄 アノ九をのさんをうり市が船ハに人のもじうつちや
つてかがれやかとかれひづねくやあんのまきう 玉
じんかこくせりあくえ 庄 ひづねまんでいきかす 田舎
みづきうと男がある市をうきおいてモ男の西
いまとくよ 玉 ゃんのことをひまくえ 庄 やんじほんづ
のうれあらへぐわくうにようじうくられよ市が
ときめてくれうとくあんあうあまれてあそびのうれ
もひうさんど 玉 どよもがてんがりまくせん思ひがれ

中^{アシ}市さんもりくをあたうんへかくことのと
とくにまわるやうよしてそれうどこのみせん
あそくおまんけんをばしてあそびいた^庄を
んすくあむづれて^玉アイ まうでかきと
庄^{シテ}いきうれぬよのわう^玉アイ まうでかきと
きんとうと^庄とのもじいねばうぬやうひきくも
ぬくの行^ス化^スんせうりや^玉むりひあつる二^ス
の悪口^庄まきられて元のとまつぶ^玉ますつてされ
であくちあらのかま高ち^{カキ}そ^班ホトウラウリ^ト庄
コ^キチヨウ^トキタ^ト高代川^ゲ^{文七}ウチアヒト^ト
角^{アシ}あふうけがまわるやうどかとくすんをうとナア
さりあれよかしてモドとかきうれしがいちトモジモカ
まきうれぼう^トモジモカ

卷之二

文

文 あらわしのうてあがまをとどま
あるべきアホのうめのうてゆき去
もとへゆきあがまをとどま
もあれ神^{カミ}はよびせのうと
んぐ角^{カツバ}のうのうと
もぐれがくらわがくらわが文^{カハ}セシムの身
もぐれがくらわがくらわが文^{カハ}セシムの身

もぢ
くわ
とく
うで
やつ
てま
くわ
かく
くわ
のこ
わの
せん

文
書
卷
之
一
卷
之
二
卷
之
三
卷
之
四

ち
か
く
ま
じ
て
け
ら
く
も
だ
れ
と
く

卷之三

三
二
一
九
八
七
六
五
四
三
二
一

卷之三

卷之三

卷之三

久々にてもうかねえやうにあらへんとおもふて
おなじみ

17
蒙古文書

アラシノカタニ
アラシノカタニ
アラシノカタニ

國語

かくはんのうじよ

卷之三

くらまへてかくゆべと行ふも晴るま
そむをとよゆくとあじんとゆくをうき
れりゆのハジキをうきよけ服ぬる事
まつよめとまよのうげよまくらり
くわされのくわくはせまくまくらり
くわするうきりよかきれ大幣の四あ
まうだそくまくとくまよほすれとお
くわよひがくせれおもへとえ

のゆゑくまくはくよとく。アトシムル
スルモテヒヤムクマタハアモテツ
ぬくまくはく

其代川

文とく

くらまへてかくゆべと行ふも晴るま
そむをとよゆくとあじんとゆくをうき
れりゆのハジキをうきよけ服ぬる事
まつよめとまよのうげよまくらり
くわされのくわくはせまくまくらり
くわするうきりよかきれ大幣の四あ
まうだそくまくとくまよほすれとお
くわよひがくせれおもへとえ

のゆゑくまくはくよとく。アトシムル
スルモテヒヤムクマタハアモテツ
ぬくまくはく

其代川

文とく

くらまへてかくゆべと行ふも晴るま
そむをとよゆくとあじんとゆくをうき
れりゆのハジキをうきよけ服ぬる事
まつよめとまよのうげよまくらり
くわされのくわくはせまくまくらり
くわするうきりよかきれ大幣の四あ
まうだそくまくとくまよほすれとお
くわよひがくせれおもへとえ

のゆゑくまくはくよとく。アトシムル
スルモテヒヤムクマタハアモテツ
ぬくまくはく

まことにそれとおびつかれてひもかのとおへ
のそふれらむとおどやがみのがまくらをほまくま
ともお代門とおまくらをほまくまこれがまくまふ
かまくまゆじゆくまく代人とおまくらをほまくま
とおまくらとおまくらとおまくらとおまくらと
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
やのゆくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま

とおまくらとおまくらとおまくらとおまくらと
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
おまくらとおまくらとおまくらとおまくらとおま
あゆやぬねのスル **西** や **伊** や **モ** おとよめであるま
いとひとて不第ミテ ひとひとひとひとひとひと
トやまくら作カハ えねのせまくら是處セヒ つれていまくら
まくらを新シメ つすま後シメ のまくらのまくらまくらまくらまくらまくらまくら

もよおひうる望みハ春乃のめおはるよをりや
にまつはまみれして今まうそ川とまくと
ゆきりもあらもどやそのよよ前(でもかくま)
代官とやつて年年のよる卒(か)威(けい)を
うかとづるどやあらがなびとてありとんともる
じやうりゆどすも月(のよとよ)よとくわ
じひやねばきぬ望みゆれどやまぞとぞを漫
ばづれ色(のねのうし)とてゆきとてゆきとてゆき

17 もよおひうる望みハ春乃のめおはるよをりや
ぬちふとすとすとぬあらもど切(せき)がれりげサ
そろとむひゆねじきぬちのり未老(まこと)も
あらきあでせひほくできけくもや男(おとこ)とけき
れりあねひゆのまつぢくらやくあらもどとくと
りとまくいわんまきをあらきくいわくとくもとく
でそれとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

きしてかひぬ氣もりあらずもやまくしりふを
おながきく全よつてあてもせんがゆうゆうのくわくを
らのきげんひどきすや考りよれとすら水
ときりみくとよまいてりうしなくもねどきくがモ
つをま男一丈でも悪一丈に思葉のかうれびづくすと不善
ちびもあらざるのじよすうと金を取れば小ちば
きりよもれくまよのうらやんごとのす
筆筆がゆくれどもあそきとすむこりつてくされ

て人乃えりのにあらじびこれまことくとくとく
イマ五人十人の人人で、多くの人人のひぐ
さらぎよとべのうへりまくとくにのみやうかことく
しアヨシハシヒキルとほド男男とまくとまくとまく
とすよ、きくとくとくとくとくとくとくとくとく
さうへあるゆれとくとくややよくうらやめく親お
えのこびもきくひひしゆくもくほもあ
ももとれとあぢの、うなみの名とまくと

に考へてさうがよんが行とりすもあらうままで
とくとくとくとくか縁でありますべがとげぬ
まふふとづきよん **又人** **そ** **伊** **サ** それまでの思ひ
ある親きとくんけど廓とどとあはりとと
のりやの「金利」によくねこくねば
うてもこりふありますと **又人** **さ** **伊** 行とよ
もあねが仮物出津ちりよみとうさんで
とくとくのかけとくのうらうとびと

文七 **ヤア** さうやうせ行難はへろとくの百全 **又人** **マレ**
こゑがくもんも健全の正味ハヒツウミイヨツウ
すもももあらふ人のえあとの一つのうち所ハ
廊の看どうのうしがかどあをきてからまび
アサシとくとくとくとくとくとくとくとくとく
更 いのち乃ややめゆ年次も今のは
やんはつらのせよ **伊** やくらどもよんじよ
ゆ **又人** さんきモウ **伊** 終えき

まへごやつれも とひそ

冬 着

市あたき

參 番

アキトケ
アホタケ

アキトケ
アホタケ

姫意紀思大尾

梅 暮里、谷 戎著

傾城買二筋道

男のいわゆる後に出で
が男のいわゆる後出で解る事に

後篇 同廓之辭

おつりよてちひひふくより
まきうくづかふをうするを

三 篇 同霄之程

あがれもはまじ隠すことを
あがれもはまじ隠すことを

傾城買描之卷

女房のうとくとくされ
さとの女房の情うとくされ

白 狐通

浦とすむおりーうとくされ

契情買言告鳥

つものかにうすよきよ
ありうきあら

辛岡二篇廊之櫻

岡もまつらく志のひらい
ゆゑてあまたあらわす

酉領城買甲子夜詰

甲子のむらうきとよすか
てうちじきのあつまるとよ

新契情買申夢之汎

もよきうきとよすか
をもあらうきあら

版鶴岡花撰帳

石己のえのむとよきとよ
ありうきあら

近て出来仕ひつるか求ら後とあはれ

戊新版

梅菴里先生作

藝文行二編

全冊

せきんけいせんのえ
よきせれんれき
か廊中のよそ

同作

甲子夜話一編

けいせんのえ
よそあら
かうのよそ

通氣
多志
如夢

藏三集主人著
ノトヅス

即ち小手入れがん家と
云ふが通字と申すのである。

青橘

立全冊

此の事は御の心をうかがふる
のやうな事もござりやうが、其へ
は事実、實事、トス。

後
輪
車
之
秀

同上
全一冊

國にまかせられぬとなつ
めに人へまわるを面白がる

也。此之謂之油。

后
全一冊

卷之三

